

2024年度

学校法人
支倉学園 ファッション文化専門学校DOREME
DOREME INSTITUTE OF FASHION AND CULTURE

学校評価—自己評価—

1. 学校の教育目標

創立80周年を迎え、社会と共生する教育機関として、創立者菅野忠雄、貞子の理念を継承し、未来に向けての若者たちの育成、新たなファッション人の育成に更に尽力する。オリジナル性の高い専門教育サービスを提供し、未来を創造する感性・発想力を備えた創造的表現者を育成する。

Dream(夢力):学生一人ひとりの夢に向かって夢と目標に近づきます。→将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution(革新力):自己変革、新たな破壊と再構築。自主自立。立ち向かう強さを養い表現の自由を追求します。→自己変革、革新を忘れず、発達の豊かさや表現力に磨きをかけ、常にチャレンジする人

Message(発信力):若い感性と創造性を「心」と「かたち」で伝え、すべての人たちに幸せになってほしい気持ちを込めて努力します。→世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、明朗活発に率先して行動する人
本校のアドミッションポリシーを再確認し、学生だけでなく職員もが日々成長していける環境作りを徹底する。そして学生達の夢と希望を叶えられるよう、企業と連携し、実践的な教育を実施し、時代が要請する高度な専門性を持った即戦力となる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・入学生数の増加を全職員の目標とする。→中等教育機関への営業強化。
- ・オープンキャンパスの充実化と魅力ある学校作りのアウトプットに尽力する。各種 SNS やメディアとの連携を深め、学校外への露出を増やして、学生獲得につなげる。
- ・服飾、ファッション教育の伝統校としての学科教育内容、企業と連携した各科目における実践的な教育の実施、企業実習、演習、企業の講師による講義など業界で即戦力となる学生を育成する。
 - ・ファッション業界に必要とされる基礎的な知識、技術、感性は、もちろんのこと、カリキュラム、企画、生産、販売へと流通業界にも通じるファッションビジネスにも力を入れ、専門的、創造的な職業人と人間教育の場として更に確立する。また、「今、ファッションにできること」をテーマに、地域の産業振興に寄与する。
- ・継続して就職率を安定させるために、1 年次から職業教育を強化し、キャリア開発に力をいれる。
- ・退学者を減少させるべく、手厚い学生サポート体制を敷く。退学を決めてから知るのではなく、不満や不安要素の段階で解決できるよう、ヒアリングと職員間の連携を強化する。
- ・学費納入については昨今の経済状況と新型コロナウイルスの影響により厳しいものがあるが、特待生制度や入学時における授業料の減免制度を周知していく。また、従来の学費納入制度を一人ひとりにあったものにしていくことも必要な要件であると考えている。
- ・職員の職場環境も改善し、必要な部門に手が届くような仕事分配をする。ムリ・ムダ・ムラの3M を取り除き、古い風習や体制を変革していく。
- ・障害のある学生支援を検討し、修学意欲のある学生のサポートをする。
- ・地元企業との連携を強化し、まちのファッション文化の繁栄に寄与する。
- ・地元就職を志す学生支援を強化し、新規就業先の開拓を促進する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1

(1)教育理念・目標

評価項目	評価			
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	③	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向 けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

東北の地での産学共同の推進を若い世代へ周知すること。そして服飾技術や知識を活かし、東北から中央の人材に寄与すること。ドレメの技術力を基に他校との差別化を図る事。

②今後の改善方策

アパレル産業への職業意識の向上のため、産学共同プログラムの充実化。

地元中心就職先の開拓、特に東北での就職率の向上と安定を目指す。

仙台のファッション人口を増やすため、イベント開催や地元企業と協働して盛り上げていく。

学科カリキュラムの老朽化に伴い、時代に沿った講師・授業内容の検討、機材整備

③特記事項

(2)学校運営

評価項目	評価			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	③	2	1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1

情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1
---------------------------	---	---	---	---

① 課題

職員評価システムの見直し。

② ②今後の改善方策

紙資料のデータ化、クラウド化を進める。

③ 特記事項

新規職員 1 名採用、育成強化

(3)教育活動

評 価 項 目	評 価			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な諸企業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	②	1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

ファッションビジネス学科のカリキュラム見直し。より実学に則った内容へのブラッシュアップと授業時間の効果的

活用方法の策定が必要。

各授業評価を実施し、現代の若者と企業のニーズに合っているかの策定が必要である。

資格、検定については合格率のみに注力するのではなく、学問としての学びを得る事に方針を切り替え、色やファッションビジネスの知識を楽しみながら学べるような指導内容に切り替える必要がある。

② 今後の改善方策

新規職員育成担当者の育成(ビジネス部門)。

指導内容の見直し。

③ 特記事項

(4)学修成果

評 価 項 目	評 価			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への項かを把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

①課題

退学者の減少が必須課題であるが、障害のある入学者が年々増加しており、対応策を検討する必要がある。

資格、検定の合格者数は横ばい、向上気味ではあるが、学生ごとの落差が激しく、卒業までに取得資格が0の者もいるため、授業担当講師だけでなく、担当職員も強い意識を持って検定合格を目指さなければならない。

②今後の改善方策

特待生、AO 入学生だけでなく、必要性を感じる学生には入学前面談を実施し、学科適正を見極める。

生活に不安のある一人暮らしの学生には入寮を進め、生活面での支援も行う。

入学後の学科や専攻の途中変更も視野にいれる。

就職率の高さをアピールしていく。

④ 特記事項

就職率 100%、進路未決定者 0 名

首都圏への就職希望が回復傾向。男子学生が増加し、男性積極採用企業の開拓が必要である。

また、独立志向の学生も多く、3年次への進学を増加させるべく、カリキュラム検討が必要である。

(5) 学生支援

評 価 項 目	評 価			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

①課題

保護者の意識や考え方も近年変わってきており、連携というよりはケアをする相手となっているのが現状。
卒業生への支援は職業紹介にとどまり、同窓会組織等が機能していないため、十分な支援は出来ない。
高校との連携は深めるため、高等学校へのアプローチを強化する。
家庭科授業との連携、教員指導の派遣、地域住民向けのワークショップ等の開催が必要か。

②今後の改善方策

職員のメンタルヘルス研修会の実施。
卒業生の連絡先や就職先等のヒアリングと名簿作成の徹底。
高校とのパイプ作り、営業強化。

③特記事項

(6) 教育環境

評 価 項 目	評 価			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

①課題

インターンシップ先は現状縫製業等限られた場所の為、より幅広い受け入れ先の検討。

学生が中長期でもインターンシップに参加出来るようなシステム作りが必要。

②今後の改善方策

校舎の老朽化への対応策を検討。

④ 特記事項

令和7年度防災備蓄品の購入予定。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	評 価			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

①課題

②今後の改善方策

メディアや SNS 等の活用方法を研究、実施。信頼できる業者との連携強化と高校への営業力の強化。

広報担当者と職員との情報共有強化と協力体制の確立をし、オープンキャンパスに来た学生の取りこぼしを防ぐ。

ホームページ、パンフレットの刷新(特に写真)

③特記事項

AO 入試、特待生試験にて、早期の入学確定者を増加させる。

学校独自の授業料減免の検討。

(8) 財務

評 価 項 目	評 価			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備は出来ているか	④	3	2	1

①課題

学生数の確保が最優先事項である。財務上の適正数を安定して確保できるように鋭意努力する。

②今後の改善方策

必要経費と不必要出費を精査し、効率的な資金繰りをする。

大規模修繕やパソコン購入などは計画的に購入し、予算を圧迫しないよう考慮する。

③特記事項

(9)法令等の遵守

評 価 項 目	評 価			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

数値管理を実施し、課題を見える化する。

②今後の改善方策

自己評価、関係者評価の時期を明確にし、年間予定に組み込む。

法人本部との連携を強化し、組織的にも効率的な運営が出来るようにし、必要事項の実施漏れなどがないように徹底する。

③特記事項

(10)社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評 価			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

生涯学習、リカレント教育の実施。（洋裁教室、キッズレッスン、サマーセミナー、彫金教室等）

②今後の改善方策

社会的ニーズの策定、魅力的な内容の検討。

卒業生や業界関係者を巻き込んだコラボレーションの検討。

メディアとの結びつきを強化し、本校の取組を発信していく。

② 特記事項

高校との連携により、出前授業の強化。

(11)国際交流(必要に応じて) ※該当なし(留学生在籍者なし)

評 価 項 目	評 価			
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	②	1
留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価され取組を行っているか				

①課題

留学生の受け入れ態勢の研究、整備。

国際化を図るためのしかけを考える。

ファッションを学びに仙台にくる外国人がいるのかどうか。

②今後の改善方策

セミナーへの参加、他校へのヒアリング。

③特記事項

特になし。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学生数は増加し、就職率も向上した。SDGs への取り組みを強化し、地元企業との連携による企画も行った。新規職員の採用や冷暖房設備の入替等もあり、大きな変革を迎えた年だったといえる。今後も本校の軌跡を再確認し、宮城での洋裁・ファッション教育を牽引してきた実績と歴史を若年層に周知していくことが急務である。今後 100 年企業を目指すためにも、社会・若者のニーズを読み取り、地域への営業力・PR を強化してさらなる学生数増加につなげていく。

他校との差別化が出来る本校の魅力

(1)本校独自のカリキュラム

・美術、芸術の基礎科目の導入(デッサン、美学等)

・長期インターンシップの実施

・各学科の強みを活かすカリキュラム

デザイン造形学科:パターンメイキング、ドレーピング

スタイリスト学科:トータルコーディネート、メイクアップ

ファッションビジネス学科:パソコンワーク、プレゼンテーション、検定

アーツ&クラフト:彫金、レザー

(2)特別講師の国際化

・スイスのファッションデザイナー兼建築家のアナ・ダプツォ氏を招いたワークショップ

・業界第一線で活躍中のファッションデザイナー、プレス、MD

(3)高い就職率

- ・校内企業説明会にてファッション業界関係企業10社以上を招き、1年次から早期のキャリア教育を実施
- ・手厚い個人フォローと進路相談にて企業とのミスマッチを防ぎつつ、学生のモチベーションも維持
- ・2024年度就職率100%(99%ファッション業界)、進学希望者も有

(4)学科担当制

- ・各学科に担当教員、ベテランアドバイザーを配置し学生相談にきめ細かく対応している

(5)豊富な学校行事

- ・ドレメゾン(学友会)での行事運営
- ・大規模ファッションショーの開催(毎年2月)
- ・芸術鑑賞や研修旅行など魅力的な行事の充実

今後の課題

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ・学生数の増強 | ・設備等のリニューアル |
| ・オープンキャンパス参加者の増加 | ・企業との連携強化 |
| ・退学者の減少 | ・高校への営業力強化 |
| ・各コンテストへの入賞実績 | ・教職員の育成(既存・新規)、中堅職員の育成 |
| ・AO 入試、特待生入学の強化、学校独自の授業料減免の検討 | ・効率的な資金繰り |
| ・職場環境の整備(ES の向上) | ・留学生の受け入れ準備 |
| ・就職率の維持 | |